

令和4年度 第15回 名取市総合教育会議 議事録

1 会議の年月日

令和4年6月3日（金）

2 会議の場所

名取市役所6階 第1会議室

3 出席者

市長 山田 司郎

教育長 瀧澤 信雄

教育長職務代行委員 佐藤 俊隆

教育委員 浅野 かおる

教育委員 洞口 ひろみ

教育委員 荒井 龍弥

4 欠席者

なし

5 傍聴者

なし

6 説明のために出席した者

菊池教育部長、黒川理事兼学校教育課長、下山教育部次長兼教育総務課長、佐藤生涯学習課長、中島文化・スポーツ課長兼市史編さん室長、森下指導主事、鶴崎歴史民俗資料館長、宇田教育部企画員兼教育総務課長補佐、宇津井教育総務課主幹兼教育総務係長

7 議題

- (1) 名取市の防災教育について
- (2) 名取市歴史民俗資料館の取組について

8 開会時間

午前10時00分

9 会議の概要

下山教育部次長兼教育総務課長

それでは、定刻となりましたので、始めさせていただきます。

本日の会議は、原則公開となっておりますので、ご了承願います。

それでは、ただいまから会議を開催いたします。開催にあたりまして、山田市長からご挨拶を申し上げます。

山田市長

本日は、大変お忙しいところ、第15回となりました総合教育会議に、瀧澤教育長をはじめ教育委員の皆様方に御出席いただき、ありがとうございます。

さて、新型コロナウイルス感染症は、収束が見えない状況が続いておりますが、日々、皆様におかれましては、命と健康を守るために様々な形でご協力をいただいていることを感謝申し上げます。

本日の総合教育会議のテーマは、「名取市の防災教育について」と、「名取市歴史民俗資料館の取組について」としました。

防災教育については、震災から11年が経過した今、児童生徒はほとんど震災を知らない世代となり、震災を風化させないためにも、防災教育の取組がますます必要となっております。

歴史民俗資料館は2年前、まさに新型コロナウイルス感染症の流行のさなかにオープンしましたが、様々な感染対策を工夫しながら取り組みを行っていただいております。賑わいづくりの一助となっております。また、昨年度にはボランティア組織「れきみんの会」が組織されまして、今後、独自の取組が期待されているところでございます。

この2点について、本日は委員の皆様方からは忌憚のない御意見等を賜り、今後の市政運営に取り入れていきたいと考えているところでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

下山次長兼教育総務課長

それでは、3の議題に入ります。ここから先は、名取市総合教育会議設置要領の第4条第3項により、市長が議長として議事を進めさせていただきます。山田市長、よろしくお願いいたします。

山田市長

それでは次第に沿って進めてまいります。よろしくお願いいたします。

まず初めに、議題(1)名取市の防災教育についてであります。

事務局から、資料に基づいて説明をお願いします。

瀧澤教育長

防災教育については、冒頭私から少しだけお話をさせていただきます。資料を見ながら聞いていただければと思います。

東日本大震災のあと、各学校から様々な反省・課題を報告いただき、課題を整理したものが資料2枚目・3枚目となります。その中で1番から6番までの課題が明らかになってきました。それを踏まえて、名取市独自の防災マニュアルを作成しました。その中身として、5番目に防災教育を掲げております。

資料 5 枚目、6 枚目に、その防災マニュアルの抜粋がありますが、災害時の基本方針、それから 6 枚目に行きまして、引き渡しの考え方、避難所運営の考え方なども含まれております。

7 枚目に、防災対応能力とありますけれども、この力を、名取の子どもたちに育てていく必要があるだろう、ということで、1 番から 4 番まで、「自らの身を守り、乗り切る能力」、「知識を備え、行動する能力」、「地域の安全に貢献する能力」、「安全な社会に立て直す能力」、それを踏まえて、平成 28 年度からは、名取市独自の防災教育カリキュラムに基づいた防災教育と、毎月 11 日の月命日に、防災学習日として全ての学校で防災に関する何らかの取り組みを行う、ということをごをこれまで続けております。

それでは、現在行っている防災教育の具体的な内容について学校教育課の指導主事から説明をさせていただきます。

森下指導主事

学校教育課 森下博史です。どうぞよろしくお願いいたします。

引き続き「名取市の防災教育」について、説明いたします。

名取市独自の防災教育に取り組むこととなった経緯等につきましては、先ほど、教育長から説明がございました。

私からは、名取市独自の防災教育と各学校の取組について説明いたします。

名取市における防災教育の目標は、「生涯にわたって災害と向き合い、ともに生きていく力『防災対応能力』を身に付ける」ことです。

防災対応能力とは、次の 4 つの能力をいいます。

1 つ目は、「自らの身を守り、乗り切る能力」です。災害時に自らの身を守り、被災後の生活を乗り切る力です。2 つ目は、「知識を備え、行動する能力」です。地域や社会の特性、防災に関する知識を活用し、防災・減災のために事前に備え、行動する力です。3 つ目は、「地域の安全に貢献する能力」です。地域の歴史や自然環境、防災体制や災害の発生メカニズム等について理解し、地域の一員として防災・減災活動に貢献する力です。4 つ目は、「安全な社会に立て直す能力」です。被災時には、地域のために活動するとともに、互いに助け合い、協力して安全な社会に立て直す力です。

これらの防災対応能力を育てるため、防災担当者会で、名取市独自のカリキュラムを作成しました。平成 28 年度から、このカリキュラムに沿った防災教育が各学校で行われております。また、学区の実態に応じて、より効果的な防災教育を行うため、カリキュラムの自校化を進めております。

名取市では、毎月 11 日の月命日を防災学習日と設定しております。この日、各学校では、教科・学校行事・学級活動・朝や帰りの短学活等の時間を活用して防災学習を行っております。

名取市独自の防災教育には、3 つの柱がございます。

「風化させない」「自分の命は自分で守る」「地域を知る」ことを目指して取り組んでおります。

ここからは、各学校の防災教育の取組について紹介いたします。

1つ目が、「みやぎ防災教育副読本を活用した防災学習」です。

「みやぎ防災教育副読本」は、発達段階に応じて、「小学校1・2年」「小学校3・4年」「小学校5・6年」「中学校」と作成され、防災学習日などに活用されています。「みやぎ防災教育副読本」の紙面やワークシートは、県教委のホームページからダウンロードすることができます。

2つ目は、「避難訓練」です。

年度当初に、避難経路の確認を行っております。すべての学校で、火災避難訓練、地震避難訓練を行っております。特に地震を想定した避難訓練では、校舎外への避難だけでなく、その場ですぐに自分の身を守る訓練も行っています。中には、予想外の地震に対応できるよう、児童生徒への予告なしの避難訓練を行う学校もあります。また、浸水想定区域・土砂災害警戒区域に立地する学校は、浸水や土砂災害を想定した避難訓練を行っております。こちらの写真は、校舎の最上階に避難する訓練を行っている様子です。

3つ目は、「引渡し訓練」です。

各学校では、災害時の引渡しルールを設定しております。このルールに基づき、実際に訓練を実施するものです。訓練では、eメッセージによる連絡、引き渡す保護者等の確認などを行います。

4つ目は、「防災に関する講演会」です。

東日本大震災での体験、防災の大切さなどを講師の方にお話しいただいております。あわせて、命の大切さについてもお話しいただくことが多いようです。

5つ目は、「地域と連携した活動」です。地域の方々の協力をいただき、「避難所開設訓練」「下校時避難訓練」などを実施している学校もございます。

以上が、各学校の防災教育の取組となります。

昨年度の防災学習日の各校の実施内容は、お手元の資料に一覧でまとめております。のちほどご覧ください。

最後に、今後の防災教育について、説明いたします。

防災教育の課題として、自分の命を自分で守る児童生徒の育成、地域との連携の推進などが挙げられております。今後も名取市独自の防災教育を続けていくことが、この課題の克服につながるものと考えております。

以上で、名取市の防災教育の説明を終わります。

山田市長

ありがとうございます。ただいまの説明を踏まえ、協議を進めてまいります。

初めに、ただいまの説明で確認しておきたい事項や、その感想なども含めて、何かあれば、お願いします。

いかがでしょうか。色々、震災の経験も踏まえて、災害種別に訓練なども行いながら、各校で取り組みをしているということですが、浅野委員いかがでしょうか。

浅野委員

大分時間も経って、実体験をしている子供たちがほとんどいない状態になっているということで、確かに私の娘たちも、あの時は小学校1年生と6年生で、今は18を超えていますので、ああ、そういうことなんだな、というような感じです。先日の3月16日の地震も相当な揺れで、娘たちは相当怖がっていました。それは、3月11日の事がよみがえり、それと、緊急地震速報のあの音を聞くだけで相当怯えている状態ではあるのですが、それは実体験があるからだと思います。実体験が無くなってきている子供たちにどのように伝えていくか、風化させないというのは本当に大事な事なのだな、と思いますし、最近本当に地震の頻発もあるので、どこで何が起こるか分からない、そして、自分の命は自分で守る、という事をしっかり伝えていって、その、実体験をしていない子供たちも、将来色々なところに行ったときに、被災地で学んだ防災教育というものをまた、下に伝えていけるような伝え方、教え方をしていかなければならないな、と、続けていくべきことなんだな、と感じています。

山田市長

ありがとうございます。今、3つの方針の中の、「風化させない」というところの問題提起をいただきました。実際に東日本大震災を体験していない子供たちに、風化させないというところをどう伝えていくのか。それは、子どもたちが防災教育を通して、今度はわが事として次の世代に伝えていく、というようにしていかなければならないのですが、その辺の、風化させない、ということと、実体験をしていない、ということとの、整合というか、実感をもって、本当に身を守らなければならない、というような訓練であったり、教育であったりというようになっているか、というと、この辺は大変難しい問題かと思いますが、この点、教育長いかがでしょうか。

瀧澤教育長

震災から10年以上経過して、非常に大きな課題だと思います。ひとつは、毎月11日に防災に関する何らかの取り組みをすること自体が、風化させない取組、ということで継続していきたいと考えています。マンネリ化していると言われるかもしれませんが、地震・津波に限らず、色々な災害について取り上げております。それから、いろんな災害が起きたときに、自分の命を守らなければならない、ということを繰り返し指導していく必要があると思っております。また、震災について、防災学習日に、ある学校で、より子供たちが実感を持って、自分事としてとらえられるように、YouTubeの映像を使って指導しているという報告がありました。その時気をつけないといけないのは、衝撃的な映像などを見ることによって、別の意味でストレスを感じる子もいるということです。その辺は難しいとは思いますが、震災後によく問題になった、津波の映像を子供に見せるかどうかということについて、どう判断していいか、ということはあると思いますが、ある程度災害の恐ろしさということを各学年の発達段階に応じて、実感として分かるような指導というのは必要だと思います。だから命を守らなければならない、みんなの大事な命を守らなきゃいけないんだよ、ということだと思います。そこは、どういうやり方が本当にいいのかは、私もまだ模索しながらですが、学校現場もそうだと思います。非常に大事な視点だと思いますので、今後も各学校の校長、防

災担当者と話し合いながら取り組んでいきたい課題だと思っています。

山田市長

発達段階に応じて災害の恐ろしさを、どう実感しながら教育していくのか、というのは、大きなテーマだろうと思っております。いいご意見ありがとうございます。

洞口委員いかがでしょうか。

洞口委員

名取市は、震災から11年たち、11年間の防災教育の中で、このような取り組みをしてきたわけですが、こちらは中学校も含めまして、やはり地域の方々も一緒に連携するような取り組みが年に1度ぐらいは必要ではないかと思えます。そして、防災訓練をするときに、消防署の方などにも来ていただくことも必要だと思っています。さきほどから風化させないという言葉は言われていますが、これは決して風化させてはいけないことだと思えます。震災にあった子供たちは、当時1歳半の子が今中学生ですから、記憶にはないです。小学生だけではなく、中学生にももう一度、きちんと、自分の身を守る、そして、中学校で災害が起きた際は、どう動くのかのマニュアルはきちんと示した方がいいと思えます。

山田市長

地域での防災訓練の中で、確かに連携はしていますが、防災教育の中で地域とか、関係機関との連携などはどのように取られているのでしょうか。

森下指導主事

各学校で地域と連携するために、色々模索しているところではあるのですが、取組の一部を紹介させていただきますと、避難所開設訓練、こちらは先ほど紹介させていただきましたが、高館小学校で行った際に地域の方にも参加していただき、児童と協力して避難所開設訓練を行った、という事例があります。地域とは離れますが、第一中学校は避難所開設訓練の時に自衛隊の方に来ていただいたという事例も聞いております。ゆりが丘小学校では、地域学校協働本部の方の力を借りながら下校時の避難訓練を行ったということも聞いております。

山田市長

色々模索しながら、地域なり関係機関と連携して取り組んでいるということですので、ひとつの視点として、地域との連携というところも防災教育の中で今後も取り入れていただければ、と思いました。

また、中学生への防災教育の必要性、マニュアルも含めて、ということですが、その点についてはいかがでしょうか。いざという時にむしろ、ここに書いてあるとおり、地域に貢献する側に回れますよね、中学生ぐらいだと。その辺はいかがでしょうか。

森下指導主事

先ほど第一中学校さんの事例を提示させていただきましたが、狙いとしては、中学生で避難所を開設できるような、そういうところの力も付けたい、という意図もあつての開設訓練と聞いております。

山田市長

なるほど。ありがとうございます。

洞口委員

補足をよろしいでしょうか。

名取市の小中学校の中で、山手・内陸・海側とあるのですが、防災教育の基本は同じだとしても、やはり、海側と山側では違うのではないかと思います。教育の仕方が。基本のマニュアルは同じでも、地域に応じたマニュアルも必要ではないかと思います。

山田市長

特に今おっしゃっているのは、沿岸部のところですね。その辺いかがでしょうか。

瀧澤教育長

先ほど森下の方から説明があつた、平成28年度に作ったカリキュラムですが、名取市として統一したカリキュラムとして、ひな型は作っておりますが、これをそれぞれの学校に合わせて、自校化して、防災教育を行っています。ですから、土砂災害が心配な学校、津波が心配な学校、内水による氾濫が心配な学校とか、そういう学校の災害の特性を踏まえて盛り込むようにはしております。ただ、そこは非常に大事なポイントだと思いますので、3年ほど前に、本当に各学校がおかれた自然環境・地理的環境に適したものになっているのか、ということで見直しをしたところ、土砂災害警戒区域が入っているのにそれが触れられていないとかということがあつて、見直しをしています。毎年見直しをして戻しています。今回、5月10日に発表された津波浸水想定を踏まえて、今見直しをしているところなのですが、本当に、自分たちの住んでいる地域に合ったものなのかどうかということは、検証し、改善しながら取り組んでいかなければならないと思っています。

山田市長

ありがとうございました。そのほか何かありますでしょうか。

佐藤委員お願いします。

佐藤職務代行委員

地域との連携という点で、思い出したのですが、増田中学校は夏休みに村区の地域の方々と炊き出し訓練を行っています。それは、おにぎり早握り大会として、中学生と、若いお母さん方と、ベテランのお母さん方とでチームを作って競い合ったりしていました。それを毎

年、おそらくは今も続いているのではないかと思うのですが、やっていましたね。

山田市長

子どもたちが積極的に参加したがるような中身になればおもしろいですね。

佐藤職務代行委員

そうですね。楽しみながらやっていたので。

山田市長

コロナが落ち着いたらぜひやっていきたい取組ですね。

佐藤職務代行委員

あとは、地域連携として、引き渡し訓練の時に考えるのですが、小学校がメインでよくやっていますが、本当は兄弟もいるので、小中連携が必要なのではないかと考えます。中学生がまず自分の弟・妹がいる小学校にいち早く行って、そこで、運営側には立てないにしても、お手伝いなどをしながら、自分の兄弟を連れて帰ってくる等をしないと、別々になっていると、導線が複雑になるので、そういった視点も必要なのではないかと思います。

山田市長

ありがとうございます。今の、兄弟などの小中連携などはあるべき姿とは思いますが、実際に場所や距離が離れていますので、そのへんはどうなのでしょう。

瀧澤教育長

今はコロナでやれていないところはあるのですが、防災だけではなくて、小中連携というのはずっと学校の方をお願いをされていて、取り組みをしております。例えば6年生が進学前に中学校に行ったり、中学生が小学校に来たり、というのも小中連携なのですが、その中で防災も一つの視点としては学校に話をしております。

実際に行っているのはみどり台中学校区で、今、佐藤委員がおっしゃったところまではやっていないかもしれませんが、同じ日に同じ時間帯で一緒に引き渡し訓練とか、防災訓練を行う、そうすると親が、兄弟が中学校と小学校にいれば、一緒に連れて帰るとか、そのような小中一緒の取り組みは行っていますけれども、まだ、全ての中学校でそこまでやっているわけではないので、今後、できるだけコロナの収束を見ながら推進していきたいと思っています。

山田市長

災害が起きたとき、すごく混沌とした中にあると思うのです。情報が遮断されたり。その時に、訓練をしていれば、その通りに動くことができると思いますので、実際にそうやって兄弟がおられて、小中連携をせざるを得ない状況があると思うので、ぜひ訓練

という形で定着できるようにご指導いただきたいと思います。

荒井委員は何かありますか。

荒井委員

全体を見ての感想としては、大変な時間をかけて、様々な教科なり、他の活動に組み合わせて工夫なされているので、盛りだくさんだな、という感想です。先ほどの話にもありましたが、学校の校区ごとの特色を踏まえ、まずは命を守る、という点では非常に大事な取り組みだと思います。

一方で、ちょっと遠い話になりますが、デンマークの学生が陸前高田に来る、ということがありまして、たまたま知っている学生だったものですから、連絡をもらい、私の大学に寄る、という話になったのですけれども、「ところで、震災って知っていますか」と聞いたら、「話には聞いてはいるがよく分からない」という話でしたので、急遽、荒浜小の遺構に連れて行ったところ、後から「あそこに連れて行ってもらってすごく良かった」と言っていました。現地に入る前に、特に陸前高田はあのような被害があったところなので、地域の方々の気持ち、まずそれが根っこにあるということを知って分かってくれたんだな、と思ったのです。何が言いたかったかということ、それぞれの地域で独自の避難・防災というの必要なのですが、別のところでこんなことが起きたんだ、ということも知っておく必要があって、例えば名取市の震災伝承館などありますので、ああいったところも上手く使えるといいな、と思っていたところです。学校で全員が行くわけには行かないのかもしれませんが、存在そのものを子供たちに知らせて、何かあったら見に行けば、こっちはこうだったのか、とか、逆に、別のところではこうだったのか、となるといいなあ、と思いました。

山田市長

例えば、東日本大震災を大きく俯瞰できるような、全体を感じられるような、学べるような場所、ということですね。名取なら名取だけではなくて、東日本全体で見られるような。

荒井委員

存在ぐらいは知らせておいて、機会があったら行ってみよう、という気持ちになってくれればいいと思います。

山田市長

確かに、そういう視点は、名取市のあの場所では、震災復興伝承館では、そこまででは無いですね。

石巻の県の施設とか、そういうところを例えば紹介するとか、そういうことは可能かもしれませんね。

瀧澤教育長

第一中学校で、どこかの学年で石巻を訪れて震災について、大川小について学習しました。

今、荒井委員がおっしゃったことは本当に大事だと思ったのですが、そういう名取市外の事もですが、私が取組が弱いと思っているのは、名取市はやはり海側と増田地区と、山手の団地があって、それぞれの地域で、子供たちも地域の方も意識が違うと思うのです。同じ名取に住んでいて、名取で学んでいながら、閑上の事を、山の手の子がどれだけ自分事として見られているかというのは、非常に弱いな、というところがあります。むしろ、名取市内で閑上を訪れるということも考えていかなければならないのかな、という想いもしています。

山田市長

取組としてはまずそちらが先かもしれませんね。同じ市内にしながら、山側の方が、東日本大震災をどの程度肌感覚で知っているのか、ということもあるので、それを教育の中で取り入れていただく、というのも大きなことだと思います。

ありがとうございました。他にありませんでしょうか。

佐藤委員

風化させないということになると、3月11日、毎月11日と決まってはいるのですが、3.16もあったり、身近に災害があった時に、それに関わったいろんな事例を教えていく、というのが、その子にとって実感をもって捉えることができるので、そういう工夫が必要だと思います。名取市の場合は、地震・津波、あとは洪水が大きいと思います。9.22豪雨がありましたけれども、当時私は第一中学校に勤めていましたが、愛島小の校舎に土砂が入り、泥かきに行ったりしたのですが、なぜ愛島がそうなるのかということで、次の休みの時に川内沢川をずっと上っていきまして、やはり、自然開発と大いに関係がある、という印象を受けました。当時、愛島台を開発していて、愛島台のゴルフ場に近いところに貯水池があって、その堤防が決壊して、そこから水が流れていたのですが、やはりその辺の、自然保護、自然開発とか、いろんなことが関係あるんだな、とか、あるいは、ここ2年前ぐらいの大雨で、これまで浸水しなかった増田西地区も広い範囲で浸水しています。それは水田の保水能力の問題で、宮農ができたことによりかなりその保水能力が落ちていて、それがJRもあり、一気に排水されないので、内水氾濫という形で、洪水が起きやすくなっているのかな、と。おそらく下増田もそうだと思うのですが、新しい防災道路ができたりしています。そういう事で、その辺の地形的なこととか、こういうような災害が起きる可能性があるよ、ということを各地区に合わせて知っておく、ということが大切だと思うので、いろんな事例をタイミングを捉えて指導していくということ、11日の日を活用してはどうか、と思います。

山田市長

その通りですね。身近な災害があった場合に、タイムリーに実感を持って感じられるように教えていただくという提案をいただきましたし、地域を良く知る、ということも含めて、取り組んでいただきたいと思います。

洞口委員お願いします。

洞口委員

宮城県、名取市もですが、40年ぐらい前から、私の知っているところでは、宮城県沖地震とか、9.22、8.5豪雨とかいろいろありましたので、東日本大震災だけではなくて、そういう風に少し前の災害で、こういうこともあったんだよ、ということ、特に中学生とか、そういう方々に伝えていただきたいと考えております。

それから地域の方の意識、東日本大震災から11年経っておりますので、町内会関係も、少し薄れているところがあるように感じます。もう少し、町内会の方にもそういうことがあった時にどうしたらいいのか、ということで、もう少し意識の改革というか、意識を高めていただきまして、私も先日、地元の会ですが、3キロのコメを炊きまして、120グラムのお握りを何分で何個作れるか、という事をしました。8人で5分くらいで60数個できたのですが、そういうデータも必要で、どの位のコメの量で、震災になったらどういう対応ができるか、というマニュアルも必要だと思えます。

山田市長

素晴らしいですね。そういうことを実践しているのは、ぜひそのデータは皆で共有できるようにお願いします。それと、食べてみたいです。

確かに震災だけではなくて、過去の水害等も含めて、それぞれの地区ごとに体験していることもありますので、それらもしっかりと伝えていくということにも意を用いていただきたいと思えます。

そろそろ時間の関係もありますのでまとめに入りたいと思えますが、この防災教育につきましては、風化させないというような視点で、災害の恐ろしさを発達段階で実感できるような教育であるとか、また、身近な災害があった場合にタイムリーに伝えていくようなこと、そしてまた、災害種別に、そして地区別にそれらのことについて教育の中に取り入れていただくことでいろんな意味で風化させないとか、自分の命は自分で守るとか、地域を知る、といったことにつながるのではないかと、というご意見がありました。また、地域・関係機関等との連携という意味でも、一部取り組みを進めておりますけれども、この件についても、より深めていただきたいという事でした。また、特に引き渡しについては小中で連携する、今学校単位で行っていることを、小中連携で行うという視点についても大切ではないかというご指摘をいただいております。

その他もろもろ、色々なご指摘をいただきましたので、それらを受けて、今後の防災教育に生かしていただければと思えます。

最後に教育長からお願いします。

瀧澤教育長

今日、追加でお渡しした「子供たちの命を守る新たな学校防災体制の構築に向けて」という、これは、大川小学校の最高裁判決を受けて、宮城県が検討した結果の概要版です。詳しくは後ほど読んでいただきたいと思えますが、3ページから基本方針が4つ示されています。1点目は教職員の資質の問題です。これは非常に大きな課題だと思えます。その次のページ、

基本方針 2 が、子どもたちの防災教育に関することが、(1)から(6)まで触れてありますけれども、今も話題になったようなことが指摘されております。名取市で一応はやってはいるのですが、さらに考えていかなければならないな、と考えております。次の基本方針(3)については、地域の災害特性を踏まえた防災体制ということで、これもご指摘あったように、学校でどんな災害が想定されるか、ということをいろんな角度で見なければなりません。最後、基本方針(4)ですけれども、これも話題になった地域や関係機関との連携という事です。ここで課題を的確に整理されていると思いますので、今日、各委員さんから出たお話なども踏まえて、防災教育に力を入れて取り組んでいきたいと考えております。

山田市長

ありがとうございました。以上で、議題(1)防災教育についてを終了とさせていただきます。次の議案に移りますが、ここで説明員入替のために暫時休憩します。

(説明員入れ替え)

山田市長

それでは、再開いたします。次に、名取市歴史民俗資料館の取組についてを議題といたします。事務局の説明をお願いします。

鴫崎歴史民俗資料館長

名取市歴史民俗資料館館長の鴫崎です。失礼ですが着座のまま、ご説明させていただきます。それでは「名取市歴史民俗資料館の取組について」ご説明します。

資料 1 ページ目をお開き下さい。はじめに、1 の歴史民俗資料館の概要についてご説明させていただきます。

はじめに、資料館ですが、皆さんご承知のとおり、増田一丁目の旧図書館の場所に、令和 2 年 5 月 31 日にオープンし、現在、ちょうど丸 2 年が経過したところです。資料館の構成については、図にもありますように、現在の資料館の建物を「センター施設」、それから第一中学校の西隣にあります「文化財収蔵館」を「バックヤード施設」として、この 2 つをあわせて、一般的な単独館としての資料館が持つ、①資料保存、②調査収集、③展示公開、④学習交流と言った機能のほか、⑤観光拠点も含めた 5 つの機能を持たせています。また、資料館の活動については、この 2 つの施設に加え、市内の主要な文化財スポットも「フィールド施設」と位置づけて、資料館の重要な「活動の場」として捉えています。

2 ページ目をご覧ください。開館日、開館時間、施設については資料(4)～(7)のとおりです。一番下、(8)の利用者数については、令和 4 年 3 月末現在で延 15,262 名、1 日平均で見ますと 30 名の方々にご利用頂いております。また、年度別で見ますと、初年度の令和 2 年度が延 7,591 名、令和 3 年度が延 7,671 名となっております。昨年度は微増している状況です。

3 ページをご覧ください。(9)の資料館の事業内容についてです。赤字の部分は、この後、

ご説明します「資料館のボランティア」さん達の活動とも関わる事業です。上から3つ目にあります「情報発信・収集」①資料館のホームページや、②刊行物作成などによる情報発信や収集などのほか、先程ご説明しました5つの機能に応じた事業を行っております。

一番上の【展示公開】事業では、市の歴史文化の特徴を表す6つの展示「テーマ」に基づいた①常設展示のほか、②の企画展示を年4回実施しています。現在は、常設展示の6つの展示テーマの周知の意味も含め、毎年1つメインテーマを定め、半分の2回はメインテーマに因んだ企画展を開催しています。令和2年が古墳、令和3年が熊野関係のもの、そして、今年度は縄文関係のものをメインテーマとしています。また、2番目の【学習交流】事業としては、「まが玉」や、「縄文土器」、「埴輪づくり」などの①体験学習事業、②の学習交流事業では、「市内歴史スポットめぐり」や、市内小学6年生の訪問学習、各種講座や講演会などの事業を行っております。

4ページ目をご覧ください。ここに令和3年度に実施しました、展示公開、学習交流事業を一覧表にまとめております。企画展4回を含む、計36回のイベントなどを開催し、延969名の方々に参加頂きました。

5ページをご覧ください。2. 資料館ボランティアの概要についてご説明致します。資料館では、現在25名の方にボランティアとして活動して頂いており、様々な事業などで参加・協力を得ています。(1) 募集の経緯と目的についてですが、資料にもありますとおり、令和2年度の資料館設置に向け、開館後の円滑な活動が図れるよう、平成30年度から事前に募集し、研修などを通じて育成を図って参りました。その他②の目的のほか、※印のとおり「今後の核となるボランティアの育成」というねらいもありました。

平成30年度には③・④のとおり、計10回の研修受講と、資料館が開館予定の令和2年度まで継続して活動できる方を対象に、15名の募集を行い計10名の方の応募がありました。

6ページ目をご覧ください。(2) 他市町村の状況と言うことで、ここでは当資料館と比較的規模に近い、県内の資料館などにおけるボランティア活動の状況を見てみます。ボランティア活動が行われている資料館が水色のトーンで示した施設ですので、ボランティア活動が行われている資料館は少ないことが分かります。こうした類似施設の状況や、当館の場合、「立地場所が恵まれているとは言えない点」や、「専用の施設ではなく一部制約もある点」、「資料館などの、そもそもの施設の性格としてリピート率が低い点」なども考えた結果、下の※印にあるとおり、活発な資料館の活動を展開していくためには、「ボランティア活動」がキーになるのではないかと考え、ボランティアを募集・育成し、一緒に活動していく事としました。いかにボランティアと一緒にソフト事業を活発に行えるのかが資料館の運営上、重要だと認識しています。

7ページをご覧ください。(3) にもあるとおり、その後も追加で募集を行い、令和3年度末現在で25名の方が登録しております。今年度も先月募集を行い、新たに計7名の応募がありました。次の(4) ボランティア研修会についてですが、研修は、これまで年5回を基本に行ってきました。令和2年度は、資料②の開館初年度であることや、コロナの影響で資料館の活動も秋頃から本格的に動き出したこともあり、ボランティアの募集・研修は行いませんでしたが、①の開館前(平成30年度、令和元年度)の研修内容は、自ずと、指定・登録文化

財などの内容や、類似施設の視察などを中心とした間接的な内容のものが中心でした。

しかし、③開館後の令和3年度になると、実際の展示室での解説実習や、まが玉づくりなどの体験学習の実習など、実践的な内容の研修に変化していきました。

8ページをご覧ください。(5) ボランティア組織「名取市歴史民俗資料館ボランティア会（愛称：れきみんの会）」についてです。

①ボランティアの自主組織については、開館前から、募集・育成を図る以上、いずれ必要になると検討していましたが、開館と同時ではなく、開館後の実際の活動状況を見ながら実情に合わせて設置していく方が良いと考えました。②にもありますが、令和2年度の後半頃から資料館の事業も本格化し、ボランティアさんの活動量も徐々に増えてきました。それに応じて、より活発な活動や、主体的な取り組みを求める声も少しずつ出始めてきました。このような流れを受け、③にあります、隔月でのボランティア定例会の実施や、会則の整備などの組織設立に向けた準備を行い、令和3年の10月11日に「名取市歴史民俗資料館ボランティア会（れきみんの会）」が発足しました。

9ページをご覧ください。3. 活動の状況（令和3年度の活動から）についてご説明致します。

ここでは、はじめて、ほぼ1年間を通じてボランティア活動ができた令和3年度の活動状況を見てみます。(1)のボランティア活動への参加方法は、大きく3つのパターンがあり、①館の主催事業へ参加する形、②体験イベントなどで、館の事業サポートする形、③ボランティア定例会や研修講座へ参加する形があります。(2)の主な活動状況の表をご覧ください。令和3年度に実施したボランティアが参加可能な事業は全部で42事業あり、大きく、イベント関係の事業、体験関係の事業、講座・講演会、定例会・研修会などがあります。下の合計欄を見ますと、これらの事業への参加者の総数は969名で、この内ボランティアが209名で、約20%の割合になっています。また、下の※印にもありますが、令和3年度の資料館の利用者総数(7,671名)に占めるボランティアの割合は約3%で、まだまだ低いと感じます。次に一番下の※印の部分ですが、表の右端の参加率の列をみると、ピンクのトーンをかけた「イベント関係」や「体験関係」などの、自由選択的に参加する事業は参加率が低いのに対して、「講座・講演会」、「定例会・研修会」などの、どちらかと言えば資料館の方から参加を求められるような事業への参加率が高い傾向がみられます。

10ページをご覧ください。最後に4. 活動の現状・課題についてです。資料館の活動の鍵を握る、ボランティア活動についての概要を説明して参りましたが、最後に課題について触れておきたいと思います。

(1) 資料館の開館前は、そもそも人数が確保できるかの問題や、実際に資料館が整備されていない段階のため、実践的な研修ができず、開館後の具体的な活動イメージがつかない点などが課題でした。それが、(2) 開館後になると課題も変化してきました。令和2年度の前半は、基本的な活動量の確保が課題となり、活動が本格化してきた令和2年の後半以降から令和3年度は、資料館やボランティア相互の意思疎通、共通の方向性を見出すことと、9ページでも見たとおり活動が受け身の傾向で「自主性を発揮できる環境づくり」が課題となり、これらを受けて、令和3年10月には自主組織を立ち上げました。そして、これらを受け(3)

今後に向けた取り組みとして、令和4年度は、①共通の目標として、まずは「小学6年生の訪問学習サポート」ができるよう研修を進めること。②主体性の確保や、お互いの意思疎通や協力関係を強化していくため、ボランティア会としての自主企画を実施することを目標にして取り組むことにしています。具体的には、資料に記載した①～④の自主企画を実施していく予定です。

以上で、私からの概要説明を終わります。

山田市長

ありがとうございました。では、只今の説明で確認しておきたいところや感想などがあればお願いします。洞口委員お願いします。

洞口委員

資料館運営については、このコロナ禍の中、色々企画もなされていると思いますが、感染対策という意味では大変だったと思います。ボランティアさんもずいぶん募られたということですが、名取市の資料館としてみれば、もう少し人数が多い方がいいのか確認したいです。私も地域の方とお話をすると、歴史に興味を持っている方はいます。その方々にどのように募集方法で募っているのか聞きたいということと、また、コロナ禍も緩和されていますので、どんどんイベントを、子供たちと一緒に、ボランティアの方の手助けもしていただいて、企画をしていただきたいと思いますと考えております。

山田市長

今、ボランティアの適正人数と、募集方法のお尋ねをいただきました。それから、イベントについてはどんどん進めていただくべきではないかというお話でしたが、いかがでしょうか。

鴫崎歴史民俗資料館長

ボランティアさんの人数ですが、現在25名の方がいらっしゃいまして、今年申し込まれた方が7名、という事で、30名強という数字ですが、活発な活動をしていくためにはまだまだ人数は欲しい、50人位は登録者が必要ではないかと考えております。

募集方法ですが、毎年15名程度募集しておりますが、半分ぐらいの応募状況となっておりますので、これをもう少し増やせるよう、募集の方法、広報も工夫してまいりたいと思っております。

イベントの実施数ですが、先ほどの資料の方にもありましており、館として主催している事業として36事業ほど行っております。このほか、依頼を受けて案内をするなど、そういった事業も年間20件ぐらいございます。イベント数もかなり増やしている状況でございます。必ず毎週に近い位、土日のどちらかは何かをやっていこう、という事を目標にしております。運営の関係もあるので、これ以上増やすというのもなかなか難しいところもあるのですが、今後はボランティアさんに入っていただいてやっていく方向性というのが大事に

なってくるのかな、と捉えております。

洞口委員

もう一つ確認をさせてください。4ページの資料、イベントの開催状況ですが、日にちは書いてありますが、曜日がありません。これはほとんど土日という事なのでしょうか。

鴛崎歴史民俗資料館長

基本的に土日がメインとなっております。

山田市長

ありがとうございます。イベントについては、私もたまに参加させていただいておりますけれども、大分積極的に取り組んでいただいているな、という感触を受けております。あとは、ボランティアさんの自主性で自主企画などもという事でしたので、今後、ぜひ頑張っていただきたいですね。募集方法についてはやはり、ホームページに載せました、広報に載せました、というだけではやはり弱いので、洞口委員のところでどなたかご紹介いただければと思うのですが、できれば膝をつめて直接お願いできる機会があるといいかもしれませんね。

洞口委員

あと、男性と女性の割合はどうなっているのでしょうか。

鴛崎歴史民俗資料館長

現在 25 名の方がいらっしゃいますが、男性が 18 名、女性が 7 名です。

山田市長

他に何かありますでしょうか。浅野委員何かありますか。

浅野委員

毎週末イベントという事ですが、来館者に楽しんでもいただくための様々なイベントをこなすのは、職員さんだけでは困難であるというのはよく分かりますし、いろんな場面の協働が謳われている中で、ボランティアさんの力は不可欠なんだろうな、と思います。ただ、ボランティアをやるというのは、私が思うに、時間と心とお金の余裕がないと、なかなか、じゃあやってみよう、ということにはなりにくいところはあると思うので、資料館に来てくださっている方は男性が多いというのは、趣味というか、自分の興味を生かせる場ということで来てくださっているのかな、という事が感じられるので、自己研鑽の部分、講座や研修への参加率が高くなっているのかな、と、私は感じましたので、もちろんそれでもかまわないので、たくさんの方に登録をしていただいて、常々、イベントをやるので、ぜひ自主的に出席していただきたい、という意識付けをどう変えていったらいいのかな、というのは、そこは問題

なのでしょうけれども、せっかく登録しているんだから、自己研鑽だけではなくて資料館の運営に協力をしていただけるような呼びかけって何だろうな、とっていたところでした。

山田市長

なかなか難しいですね。趣味とか興味があって、来ている人がいて、その方に運営にかかわってもらうということ、そこに一つのハードルがあるのかもしれませんが。開館後の課題の中でも、コロナがあって継続的な活動ができていないとか、ボランティアさん同士の意思疎通ができていない、そもそも共通の方向性が見えない、これはこれで問題かな、と思います。ここに向かって行くんだよ、というのが必要ですよ。歴史民俗資料館のコンセプトはなんでしたっけ。

鶴崎歴史民俗資料館長

目的としては、確実に歴史文化を未来に継承していくということになっています。

山田市長

そうですね。歴史文化というのも、愛されるふるさとなとりの市民にとっての誇りとなる要素だと思いますので、それを知ってもらうためにまず歴史民俗資料館があって、そこに集う人たちのつながりのなかでそういうものを作っていくということで、大事な場所であり、大事な活動だと思うのですが、今のところは人数的にももう一つだし、中身についても、つながり等についても課題があるという事です。その辺、荒井委員から何かありますでしょうか。

荒井委員

ボランティアさんの自主企画ができてきたということは期待できるな、とっていたところ。なにがしかのニーズがあってボランティアの登録に来て下さるということがあって、それと、実際の活動のチームワークが上手く行かないとボランティアさんも続かない、という話だと思うので、ボランティアさん発信の企画を応援していくようなかたちで盛り立てていけば、いやおうなしに、少なくとも企画して下さった方はやって下さるし盛り上がって下さると思った次第です。つまり、資料館側の普段の仕事に巻き込むというよりは、資料館側からサポートしていくという形の立ち位置が見えてくると、こういうことをやりたいんだけど、という人が出てくるのかな、という事を期待したいです。

山田市長

市や教育委員会が必ず全部主体という事ではなく、ボランティアさんの主体、自主企画なども含めて側面から支援していくという事です。ありがとうございます。

佐藤委員どうでしょうか。

佐藤職務代行委員

ボランティアさんはおそらくやりたい事があってきているんだと思います。私だったら、例えば方言を極めて辞典を作りたいな、とか、昔話を作りたいな、という人もいるでしょうし、あるいは、昭和三陸津波の石碑がありますよね、あれが忘れさられていて、その後チリ地震もあって、貞山運河をこえて津波は来ないという事がなぜ民間で伝承されていたのか、ということの研究したい、という人もいるでしょうし、いろんなことはあると思うんです。定例会の中で、そういう問題意識を発表し合う場があるのかどうか。それを通してお互いの興味関心を分かりあったうえで、じゃあみんなでこういうことをやっていこうよ、とか、そういう形の自主企画が出てくれればいいと思うし、みな同じ気持ちでなくても構わないので、いろんな興味関心を発表して、それが意欲となっていけばいいなあ、と思っています。

山田市長

今ボランティアさんで来ている人たちの問題意識を共有する場が必要ではないか、ということですが、その点については今どうなっているのでしょうか。

鴫崎歴史民俗資料館長

ボランティア募集して、基本の研修会を年5回行いますが、最初にオリエンテーションという事で顔合わせを行います。その時に自己紹介をしていただくのですが、自分の興味を持っていることをお話していただきます。無償のボランティアという事もあって、資料館とボランティアは対等な立場で、相互に成長していきましょう、というのが基本的な考え方になっておまして、ボランティアさんの応募する動機付けとして、色々な講座に参加してもらえる特典などもありますし、自分の興味関心に応じた学習も一つの活動です、ということで位置づけております。実際は、皆さんそれぞれが色々な興味、関心がある。それから、歴史自体には興味がなくて、ボランティア活動に興味がある方とか、皆さんバラバラな状態です。そういう事もあり、まずはお互いのことをよく知って、意思疎通を図って共通の方向に向かって行く、そのためには、同じ目的のために、とりあえず自分の興味は置いておいて、一緒に活動していくという事が重要だろう、ということで、自主企画を4つ出し、やっていく。その活動の中でそれぞれのことを知り、協力関係につながっていくのかな、と考えております。

山田市長

今の、問題意識を共有して、それぞれバラバラだということで、自主企画を出して、一緒に活動していくことでみんなをつなげていくのではなくて、問題意識を共有して、みんなそれぞれ問題意識を持っているんだけど、その中からどれを自主企画にしていきますか、ということにつなげていくための仕掛けというか、働きかけというか、その形成過程が大切なんだと思います。なので、問題意識を皆出しました、それはその通りですね、だけど、その中でれきみんの会として、どういう事に取り組んでいけばいいですか、ということの投げかけなり働きかけをして、みんなでその後意見出し合って、じゃあ、これとこれをやっていきましょう、という方向にもっていくように誘導というか、見守っていくというか、そういうところが大切なのかな、と、先ほどのご意見を聞いて思いましたので、結局、ボランティ

アって、やる気とやりがいだけでできているんです。歴史そのものに興味があってくる方もボランティア活動に興味があってくる方がいても構わないと思うので、それぞれの方が意見を出し合って、それがあある意味採用されたりしながら、一つの物が出来上がって、達成感があって次につながっていくと思うので、その形成過程を大切にしてほしいと思います。それが、今の意思疎通とか、方向性が見えないというようなところの課題の解決につながるのかな、という気はします。あと、方向性については対等で、とおっしゃったので、両方必要だと思います。名取市として、教育委員会としてこの方向に向かって行く、という大きな柱と、ボランティアの方々が積み上げていってこしましょう、という、2つがあっていると思うので、それは上からの押し付けではなくて、下から上がってくるのを待つ受け身の姿勢でもなくて、その両方が必要かな、と思いました。

教育長何かありますでしょうか。

瀧澤教育長

資料の最初にありました、名取市の歴史民俗資料館が、資料館、収蔵館、フィールドを一体として、歴史民俗資料館だ、という考えですが、もう少し広さとか建物が取れば、その中で収蔵庫を置いてその中で完結する資料館ができるのでしょうかけれども、ここまで2年間を見ていると、これがただの考え方だけだと、お題目になってしまうのですが、私が言うのも何ですが、館長を中心に意欲的に講座やイベントを行って、つながっているな、という感じはします。これを続けていくのはかなり大変だとは思いますが、来館者もコロナの中で当初予想よりも多くこれだけ来ているというのは努力が実っているんじゃないかと思っています。もう一つは、これまでの話からはずれるかもしれませんが、6年生の資料館見学というものを私は大事にしていきたいと考えております。ある子供が、「初めは名取には歴史の物はぜんぜんないと思っていましたけれども、すごくたくさん歴史の物や建造物があったので、たくさん歴史を知れて良かった。今度はゆっくり見に来たい」というような事を書いている子が、この子の他にもたくさんいるんです。全ての学校で実施できるようにお願いしています。子供たちに大事な見学だと思っています。同時に、ボランティアの方と話したときに、「子供たちに名取にいっぱい歴史的なものがあるという事を知ってほしいんだ」という事を何人かの方が言っていました。見学の時、ボランティアに説明してもらうということで、ボランティアの方はかなりやりがいを感じると思うのです。子供に教えられる、子どもから感謝される、先ほど鶴崎が言ったとおり、ボランティアの方は興味分野が色々なのです。ただ、子どもたちに資料館で名取のことを伝える、ということは共通の認識でやれると思います。そして子供がこういう感想をもって、そして学んでいくという循環が継続していければ、と考えています。課題はいろいろありますが、2年目、3年目を迎えて、更に取り組んでいきたいと考えております。

山田市長

私も、これまでの歴史民俗資料館の取組の中で本当にいろいろと苦労しながら、そして汗をかいて一生懸命頑張ってもらって、それはボランティアという形もそうですし、色々と名

取の歴史を知る機会を皆さんに提供しているという意味では非常によく頑張ってきているな、
と思っております。そうはいても、市や館だけではできないので、ボランティアの方と力
を合わせてやれるような仕組みづくりをしっかりとやっていただけたらと思います。

皆さんの方から他にありませんでしょうか。

よろしいでしょうか、では、皆さんも折に触れて歴史民俗資料館を訪れていただき、フィー
ルドを体験していただけたらと思います。

では、以上で協議を終了しますが、事務局は本日の協議内容を十分に取り入れていただき、
事業に取り組んでいただきたいと思います。

以上で本日の議題についての会議は終了とさせていただきます。

その他、事務局から何かありますでしょうか。

下山次長兼教育総務課長

特にございません

山田市長

ないようですので、以上で終了させていただきます。本日はお忙しいところありがとうご
ざいました。事務局へお返しします。

下山次長兼教育総務課長

本日は、大変活発な意見交換をしていただき、ありがとうございました。

以上をもちまして、第15回名取市総合教育会議を終了いたします。大変ありがとうございました。

10 終了時刻

午前11時12分